



心のストライクゾーンを広げてみると・・・

私たち子供を囲む大人が「しっかり、きっちり、ちゃんと、がんばるべき」という発想から、脱却できると、子供たちに寄り添った支援ができるのかもしれませんが。「しっかり、きっちり、ちゃんと」や「典型的な育ちをよしとする」という考え方は、「子供に完全を求める」ということです。しかし、それでは、それぞれの子供たちが秘めている「よさ」や「強さ」を見落としてしまうかもしれません。

そんな時に、「心のストライクゾーン」をちょっと広げて見てみましょう。これを広げて見ると、子供の「いいところ探し」ができるのです。

例えば、「授業は45分ずっと座っているのが当たり前」という前提で考えると、「算数の時間に15分しか座ってられない子を、どうやって45分座らせるか」ということばかりにとらわれてしまいます。

そこで、「心のストライクゾーン」を広げてみましょう。「15分しか座ってられない」は、「15分も座っていられた」と、プラスの見方に変えることができます。そして、この15分を18分、20分と少しずつ増やしてあげるために、どのような支援の仕方があるか、と考えられるようになってきます。



「15分座っていられた」
を認めてあげる

単に「座らせること」や「他の子と同じに学習すること」を目標にすると、その子はますます委縮してしまいます。それよりも、その子の「いいところ」を発見し、その「よさ」を生かして、「ぼくにもできる」「私にもやれる」と自信を取り戻させてあげたほうがその子にとってずっと有効ではないでしょうか。

★チャレンジタイム★ 「課題」と思う姿も見方を変えてみると・・・

子供たちの「課題」と思う姿の見方を変えてみてください。どのような言葉に変換できましたか・・・？

